

百合地巣塔(奥)の近くで無農薬農法を続ける北垣和一さん。
野外100羽を喜んだ=豊岡市百合地



国内の野外では46年ぶりに
巣立ったコウノトリの幼鳥
2007年8月1日、豊
岡市河谷

野外コウノトリ

巣立ち見守り志つなぐ

関係者 100羽目「ようこそここまで」

2005年の初放鳥以来、野外にすむコウノトリが初めて100羽に達した。長年、保護や野生復帰に取り組んできた人たちは、大きな節目を喜んだ。今後も増え続け、人と自然の共生のシンボルとして慈しまれるよう期待する。(1面参照)

管理ノウハウ各地と共有

種保全、繁殖地拡大が重要

一度は絶滅し、空から姿を消した日本のコウノトリ。19日に野外の個体が100羽に到達し、人が飼育

一度は絶滅し、空から姿を消した日本のコウノトリ。19日に野外の個体が100羽に到達し、人が飼育

一度は絶滅し、空から姿を消した日本のコウノトリ。19日に野外の個体が100羽に到達し、人が飼育

① 野外にすむコウノトリが、このたび何羽に達したのでしよう。

羽

② 県立コウノトリの郷公園の元飼育長松島興治郎さんの志が書かれているところを線で囲みましょう。

羽以上

歳以上

③ 繁殖できるのは、何歳以上ですか？また、現在その鳥の数は、何羽以上いますか？

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

100羽目が巣立った豊岡市百合地地区の巣塔。6歳雄と8歳雌の若いペアが繁殖地が広がった年に1

ひな2羽を育てていたが、かつて巣塔を使った19歳雌が何度も巣を狙った。この日も急襲を受け、100羽目は逃げるように飛び立ち、水田に着地。劇的な巣立ちだった。

00羽に達し、不思議な因縁を感じる。幸せを呼ぶとされるコウノトリが全国に飛び、多くの方々に幸せを届けてくれると期待したい」とコメントした。

巣塔の周辺では、鳥たちの餌を残す「コウノトリ育む農法」が07年から続く。農地を管理する「百合地営農」の北垣和一さん(72)は、祖父の代から保護に関わってきた。「ここまで増えるとは想像もなかった。ようこそここまで」という思いでいっぱい」と感慨深げだった。(阿部江利)

とされる。今年から5年以上、3歳以上の鳥が50羽を超える状態が続けば、危険のレベルを1段階緩和する目安に達する。

ひなが増えることで、遺伝子の多様性が生じ、より絶滅前の状況に近づける」一方で、数の増加とともに行動範囲は全国へと広がり、今後は全国規模での対応が重要になる。

今年5月下旬、雲南市でひなをかえした親鳥がサギと間違えられて射殺された。悲劇を防ぐため、コウノトリの知名度アップや保護活動の周知を図ることも今後の課題だ。(阿部江利)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。